

丹波地域環境パートナーシップ会議情報誌

VO1.3

内容

丹波地域の珍しい動植物紹介…2～3p



活動報告

- 篠山市サギソウ保存会…4p
- 丹波篠山自然塾むしクラブ…5p
- 丹波地域のホトケドジョウを守る会…6p
- 丹波県民局環境課…7p

お知らせ

篠山市で県内最大イヌザクラ、
丹波市でヒナノシャクジョウ
が見つかりました！…8p



編集・発行
丹波地域環境パートナーシップ会議
事務局：丹波県民局県民交流室環境課
〒669-3309 兵庫県丹波市柏原町柏原 688
☎0795-73-3774 FAX 0795-72-3013
☆皆様からの寄稿、ご意見、ご感想などお待ちしております！



丹波地域の珍しい動植物



バイカモ

(兵庫県レッドデータブックBランク)

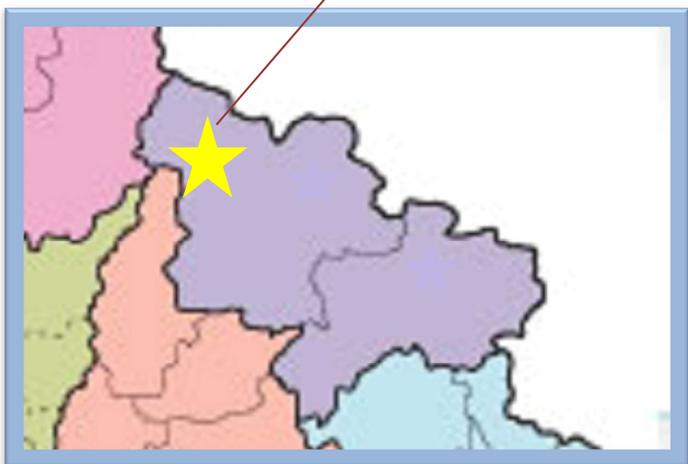
キンポウゲ科に属する多年生の沈水植物。清流中に生息しており、特に初夏～初秋にかけてウメの花のような白い花を水中につける。丹波地域では、丹波市青垣町の佐治川やその支流の清水川などで見られる。近年はシカの食害が懸念されている。

活動団体

丹波市：丹波佐治川自然の会

主な生息区域

丹波市青垣町佐治川及びその支流清水川など



写真提供：桧倉自治会

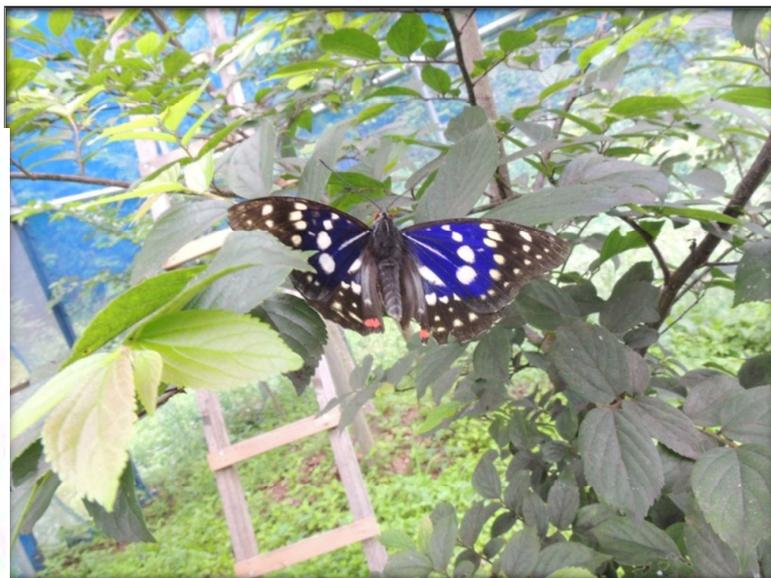
オオムラサキ

(兵庫県レッドデータブックCランク)

日本の国蝶。羽を広げると10 cm以上になる大型のタテハ蝶。日本では、北海道から九州まで各地に分布している。

雄は羽の表側が美しい紫色に輝く。雌は、雄より一回り大きい、羽は焦げ茶色をしている。

成虫は6月上旬～7月下旬にかけて羽化する。エノキに卵を産み、幼虫はエノキの葉を食べて成長する。成虫はクヌギなどの樹液を吸う。



オオムラサキのオス

主な生息場所(会員活動地域)

丹波市…丹波の森公苑、鴨庄

篠山市…南新町、福住、八上、篠山の森公園など

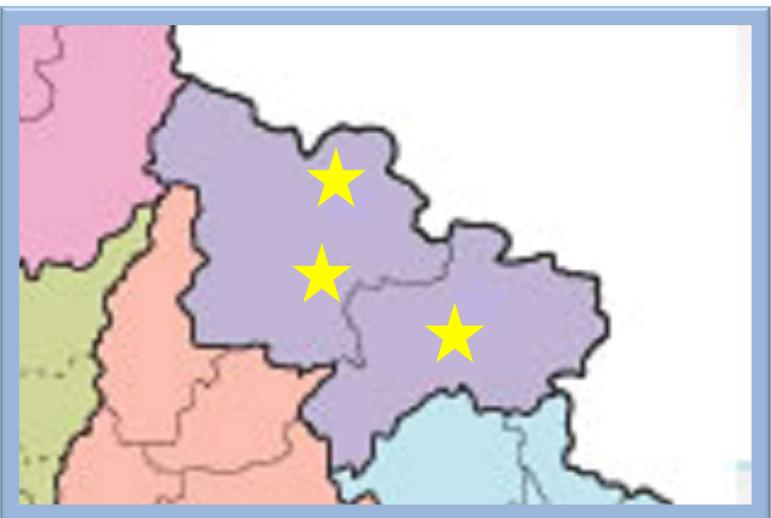
主な活動団体

- 鴨庄オオムラサキ飼育の会(丹波市市島町)
- 兵庫丹波オオムラサキの会(丹波市柏原町)
丹波の森公苑森づくり課(丹波市柏原町)
- 南新町美しいまちづくりの会(篠山市南新町)



オオムラサキのメス

写真提供：鴨庄オオムラサキ飼育の会



丹波篠山自然塾むしクラブ

会長 大塚剛二

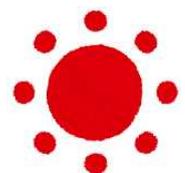


丹波篠山自然塾むしクラブは平成 23 年1月 15 日に虫好き集まれ！を掛け声に集いました。身近な自然を知り、仲間と共に活動できる場が欲しい。きらきらする目で昆虫を追い、触り、夢中になっている少年少女の姿は昔の昆虫少年少女を刺激しています。むしクラブを、会員がともに話し合えるサロンのようなものにしたいと思っています。

こどもたちは生き物が大好きです。五感を研ぎ澄まし捕まえ、命に触れてこそ心を動かし、喜びと探究心、好奇心が深まっていきます。定

例会を重ねていくうちに大人達や先生のいない子ども達だけの世界もできているようです。大人会では虫好きが集まり情報交換、虫談義で賑やかです。

- 1 定例会 毎月第3土曜日 大人会 毎月第1日曜日 篠山市を中心に場所を変えて行っています。5月の定例会には野外での山菜料理を楽しみます。
- 2 総会 4月の定例会を兼ねています。
- 3 会報 年1回発行
- 4 定例会 大人会での観察 採集したデータで丹波の昆虫相を明らかにする。
- 5 人と自然の博物館で展示の部（平成 27 年2月）に出展しました。



篠山市サギソウ保存会

会長 谷口次男

サギソウは昭和 52 年に今田町の花に選定されました。ですが土地の造成や農地改良などで、サギソウの自生する湿地がなくなったり、水脈が変わったり、また盗掘などで個体数が減少してきました。



年々減少していくサギソウを守ろうと、平成 4 年に「今田町サギソウ保存会」を結成。町村合併で篠山市となり、平成 11 年から「篠山市サギソウ保存会」となりました。

以前、自生地は 40 数カ所あり、田んぼの畦にも咲いていたといわれているサギソウも、現在の自生地は 3 カ所と激減しています。しかも、現存の自生地も地権者などの関係でサギソウの保存管理は困難となってき

ています。

これらサギソウを保護するために、まずサギソウとはどのようなものか知っていただくため、サギソウ球根の植え付けに適した 3 月に講師を招いて栽培講習会を行っています。

また減少しているサギソウを増殖して自生地に返そうと、普通の培養土では発芽成長しませんので、成長に適した栄養素を含んだ寒天培地に無菌的に植え付ける無菌播種を行っています。自生地の管理としては 2 月に草刈りをして環境の整備を行っています。

成育中の栽培鉢などを持ち寄り、生育状態や栽培方法の意見の交換会を行い、サギソウの開花時期には会員が鉢で育てたサギソウの展示会、自生地の観察会、小学生対象の親子サギソウ観察会を開催しています。

サギソウの自生している湿地には、兵庫県レッドデータブックに記載されているトキソウ、カキラン、ノハナショウブ、ケシンジュガヤ、植物ではありませんがハッチョウトンボ、湿地性ではありませんがヒナノカンザシ、ヤマトキソウも見られます。絶滅危惧種ではありませんがサワシロギク、サワギキョウ、ムカゴニンジン、ミミカキグサ類等々見られますので、これらの保護も少しずつ行っていく予定です。

サギソウと共にこれらの植物を保護するには、色々と問題があり困難かと思いますが、進めていきます。



丹波地域のホトケドジョウを守る会



調査の様子

会長 山科ゆみ子

ホトケドジョウはコイ目タニノボリ科に属する日本固有種で、環境省レッドリスト絶滅危惧種 IB 類、兵庫県レッドデータブック A ランクに指定されています。兵庫県内では丹波市内 5 カ所のみ に棲息し、本州の西限にあたります。

里山環境の変化等によりホトケドジョウの棲息数も昔に比べ減少しており、丹波地域のホトケドジョウを守る会では、9 年間にわたり原則毎月 1 回、棲息地での水質や棲息状況の定期調査をはじめ、人工池の整備等保全活

動や地域住民を対象とした啓発活動を行っています。

昨年 12 月には土砂の流入により水深が浅くなり、夏場に干上がったこともあった人工池を改修しましたが、今年の春には引き続き繁殖が確認され、夏場でも十分な水位が確保できており、多くのホトケドジョウが棲息していました。



確認されたホトケドジョウ

ナガレホトケドジョウとの違い

ナガレホトケドジョウは、環境省レッドデータブック IB 類、兵庫県レッドデータブック B ランクに属していて、山間部の溪流などに生息しています。吻側部に暗色斜帯が明瞭に見られますが、ホトケドジョウでは不明瞭、またホトケドジョウには下顎に一对の黒斑を備えるのに対し、本種では欠いています。以前はホトケドジョウと同種であると見なされていましたが、これらの違いなどから別種とされています。



山間部の溪流などに生息するため、上流域での森林伐採や開発はナガレホトケドジョウの存在を脅かすことが予想されます。

今後も、貴重なホトケドジョウの保全に向け、これまでの経験を活かし新たな棲息地の調査にも取り組んでいきます。

150 人の昆虫大捜査線



丹波県民局環境課



9月22日(火・祝)に丹波並木道中央公園で、「150人の昆虫大捜査線」を開催しました。

兵庫県立人と自然の博物館の昆虫博士として知られる八木剛主任研究員が網の使い方や捕獲方法をアドバイス。

その後約40分間、並木道中央公園内の芝生や山の斜面などで、約250名で昆虫採集をしました。

採集した虫は一匹ずつビニール袋に詰め、バッタやチョウなど種類ごとに展示しました。中には体長が10cm近くもあるオオカマキリやカエルを捕まえる子

も。約250名で採った虫はなんと84種550個体にも及びました。

採った虫の名前や育て方などを八木主任研究員に聞く子ども達もいて大賑わいでした。

参加した子ども達からは「思っていたよりも虫がいて驚いた」「いろんな虫を捕れて面白かった」「虫のことがわかって良かった」などの声が寄せられました。



尼崎の森中央緑地でも同様の「昆虫大捜査線」を行っており、兵庫県立人と自然の博物館では、尼崎の森中央緑地と丹波並木道中央公園での昆虫相の違いを今後調べていく予定です。



県内一の『イヌザクラ』、 篠山で見つかる！

お知らせ

丹波市で初の ヒナノシャクジョウ確認！

丹波市で、これまで確認されていなかった腐生植物のヒナノシャクジョウが市内の山中で初めて確認されました！

丹波自然友の会世話人の金川文雄さんが発見されました。金川さんは、かつて、県で70年ぶりとなるシロシャクジョウも市内の山で発見されています。

ヒナノシャクジョウは茎が短く、地面の上に花が咲いているように見えるものの、花びらはなく、筒状の花筒の先端に1mmほどの小さな花をつけます。森林の林床で、落ち葉の間から顔を出すように生えています。環境省では指定はされておりませんが、兵庫県レッドデータブックではBランクとなっています。

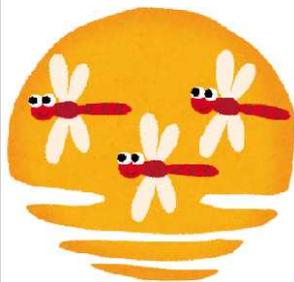


多紀連山の一つ「西ヶ嶽」(標高727メートル)で『イヌザクラ』が見つかりました！

イヌザクラは、バラ科サクラ属の落葉高木です。国内では本州、四国、九州などに分布していますが、丹波市では自生の記録はなく、篠山市内でも川原集落の山中で一本見つかった程度でした。

今回見つかったイヌザクラは、胸の高さの位置で4.35メートルの幹周り、標高は20メートルあり、今まで県内一の大きさとされてきた神崎郡のイヌザクラを上回っています。

発見者は、「多紀連山のクリンソウを守る会」のメンバーの方々です。



次号予告



○丹波地域の希少動植物の紹介
○活動報告
etc.



発行時期：平成28年夏～秋頃(予定)